

授業科目名： 物理学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西尾信一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 自然科学や科学技術の基礎である物理学の概論。物理の基礎概念や考え方の修得を重視し、身近な現象や課題を物理的に考える力を養う。			
授業の概要 物理学のさまざまな分野の基礎的事項を精選して扱う。計算よりも基礎概念と基本的法則の理解を重視し、それらを用いて日常生活やスポーツなど、身近な現象や課題などを物理的に考える。視聴覚教材、デジタル教材、ミニ実験などを積極的に活用する。			
授業計画 第1回：速度・加速度、基本的な運動 第2回：力と運動の法則 第3回：力と物体の回転、運動量保存則 第4回：仕事とエネルギー、エネルギー保存則 第5回：熱と温度、状態変化 第6回：圧力、熱力学の法則 第7回：波の速さ・波長・振動数 第8回：波の反射と屈折 第9回：波の回折と干渉 第10回：定常波 第11回：電荷と電場 第12回：電気回路 第13回：電流と磁場、電磁波 第14回：原子構造、放射線と放射能 第15回：補足とまとめ			
テキスト 「日常の疑問を物理で解き明かす」原康夫・右近修治（ソフトバンククリエイティブ）			
配付資料			
参考書・参考資料等 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業中の課題（20%）。毎時の確認テスト（60%）。その他の提出物（20%）。			

授業科目名： 薬学物理	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：西尾信一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学		
授業のテーマ及び到達目標 薬学を学ぶ上で必要な物理学の基礎力を身につけるために、原子および熱力学についての基礎知識と基礎的な概念を修得する。			
授業の概要 放射線は診断と治療の重要な手段であるし、放射能をもつ医薬品も存在する。エネルギー準位は、機器を用いた薬の分析の原理を理解するために必要な知識である。また、熱と温度、エネルギーとエントロピーなどは、薬の体内での溶け方や効き方を扱う薬学の基礎となる。この講義では、薬学に関わるこれら原子および熱力学分野の基礎を扱う。併せて、これらの分野の科学リテラシーの育成を図る。			
授業計画 第1回：原子(1) 原子と原子核の構造、原子モデル 第2回：原子(2) 放射線と放射能、放射能の半減期と放射線の人体への影響 第3回：原子(3) 光の粒子性、X線の粒子性と波動性 第4回：原子(4) 原子のエネルギー準位、レーザー 第5回：熱力学(1) 熱と温度の関係、熱容量と比熱 第6回：熱力学(2) 圧力と気体の状態方程式、状態量と気体のp-V図 第7回：熱力学(3) 気体の分子運動とエネルギーの関係、内部エネルギーとモル熱容量 第8回：熱力学(4) 熱力学における系・外界・境界、熱力学第一法則と熱機関 第9回：熱力学(5) 定容過程・定圧過程・等温過程・断熱過程、不可逆変化・エントロピー・熱力学第二法則 第10回：熱力学(6) 実在気体の状態方程式、分子運動の量子化とボルツマン分布 定期試験			
テキスト ①日本薬学会編（2015）『プライマリー薬学シリーズ2 薬学の基礎としての物理学』東京化学同人 ②日本薬学会編（2015）『スタンダード薬学シリーズII 物理系薬学I. 物質の物理的性質』東京化学同人			
参考書・参考資料等 ①山本明利、左巻健男（2006）『新しい高校物理の教科書』講談社 ②安西和紀他3名（2015）『わかりやすい薬学系の物理学入門』講談社 ③大林康二他4名（2013）『薬学の基礎としての物理』学術図書出版社 ④廣岡秀明他4名（2019）『医療系の基礎としての物理』学術図書出版社			
学生に対する評価 定期試験(50%) 確認試験10回分(50%)で評価する。追再試験を実施することがある。			

授業科目名： 化学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、長谷川登志夫 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標 身の回りの全ての物体を構成している物質の特性を系統的に学習する。化学反応が起こる理由が分かると、未知なる反応も予想できるようになる。そのような、ルールを学び取ることを目標とする。			
授業の概要 化学物質の性質や化学反応が起こる理由などの多くが、物質内の電荷の偏りで説明ができる。まずは、原子の基本的な性質を学習した後に、世の中の様々な化学現象を容易に解釈できるように講義していく。また、苦手意識の高い計算問題も効率よく解答できる方法を学習する。			
授業計画 第1回：化学とは？（担当：和田重雄） 第2回 原子：原子核と電子（担当：和田重雄） 第3回 元素の周期律・周期表（担当：和田重雄） 第4回 化学式、イオン式、化学反応式（担当：和田重雄） 第5回 物質質量、濃度、化学反応の計算（担当：和田重雄） 第6回 化学結合1－共有結合、分子の極性（担当：長谷川登志夫） 第7回 化学結合2－イオン結合、金属結合、結晶の構造（担当：長谷川登志夫） 第8回 物質の三態、溶液の性質（担当：長谷川登志夫） 第9回 気体の性質（担当：長谷川登志夫） 第10回 熱化学（担当：長谷川登志夫） 第11回 反応の進み方と化学平衡（担当：長谷川登志夫） 第12回 酸と塩基、中和（担当：和田重雄） 第13回 酸化と還元（担当：和田重雄） 第14回 物質の世界1－無機物質（担当：和田重雄） 第15回 物質の世界2－有機化合物・高分子（担当：長谷川登志夫）			
テキスト 左巻健男・和田重雄他（2008）『基礎化学12講』化学同人			
参考書・参考資料等 長谷川登志夫（2014）『マンガでわかる有機化学』オーム社、和田重雄、木藤聡一（2017）「薬学系基礎がため化学計算」、和田重雄、木藤聡一（2017）「薬学系基礎がため有機化学」			
学生に対する評価 確認テスト（70%）、課題（30%）で評価する			

授業科目名： 生活の化学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高山博之 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標 身の回りにある化学製品の成り立ちを理解することを通して、化学の基本的知識を修得する。			
授業の概要 われわれの身の回りは、化学製品であふれている。代表的な生活用品の作成方法やその性質等を理解することが、毎日の生活に潤いを与える。製品の成分や成り立ちを説明しながら、化学の基礎的原理を講述する。			
授業計画 第1回：イントロダクション、化学の基本事項 第2回：酸性・塩基性の化学 第3回：衣服の化学 第4回：洗濯の化学 第5回：水の化学 第6回：プラスチックの化学 第7回：料理の化学 第8回：コロイドの化学 第9回：薬の化学 第10回：化石資源の化学 第11回：材料の化学 第12回：電池の化学 第13回：電気製品の化学 第14回：固体、液体、気体の化学 第15回：総まとめ			
テキスト 芝原寛泰・後藤景子著（2009）『身の回りから見た化学の基礎』化学同人			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 確認テスト（70%）、課題（30%）で評価する			

授業科目名： 医薬品の化学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：高山博之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学		
授業のテーマ及び到達目標 医薬品の作用（効果）が、化学構造と密接に関連していることを理解する。			
授業の概要 主として、登録販売者として理解しておくべき一般用医薬品を取り上げる。医薬品化学は情報科学でもある。医薬品の構造から、医薬品の作用が理解できるとともに、副作用を予測することも可能である。構造式と薬理作用を結びつけて考えることができるような基本的知識を修得する。			
授業計画 第1回：基礎事項1 構造式、官能基 第2回：基礎事項2 構造式と溶解性（水溶性・脂溶性）の関係 第3回：殺菌消毒薬 概要 第4回：殺菌消毒薬 詳細 第5回：ビタミン剤 概要 第6回：ビタミン剤 詳細 第7回：解熱鎮痛薬 第8回：鎮咳去痰薬 第9回：点鼻薬・鼻炎用内服薬 第10回：眼科用薬 第11回：胃腸薬 第12回：整腸薬・止しゃ薬 第13回：外用消炎鎮痛薬 第14回：催眠鎮静薬、眠気防止薬・乗り物酔い予防薬 第15回：演習			
テキスト			
参考書・参考資料等 日比野利、夏刈英昭、廣田耕作（2011）『New 医薬品化学』廣川書店 中島恵美・伊東明彦（2010）『今日のOTC 薬—解説と便覧』南江堂			
学生に対する評価 確認テスト（70%）、課題（30%）			

授業科目名： 生物学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菌部幸枝 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生物学の基本となる事項について、その解明の歴史を踏まえつつ知見を修得する。			
授業の概要 生物学では、中学校及び高等学校理科の学習に関連する内容について、その内容の解明の歴史を踏まえつつ、分子レベルでの理解を深める授業を展開します。			
授業計画 第1回目：ガイダンス、生物学を学ぶ意義、生命観の変遷 第2回目：生物学の進歩の歴史（課題レポート①をもとに） 第3回目：細胞と分子 第4回目：細胞周期とタンパク質 第5回目：細胞の増殖と染色体 第6回目：減数分裂と染色体 第7回目：酵素と化学反応 第8回目：体内の情報伝達機構 第9回目：感染症とその克服 第10回目：遺伝学の進歩の歴史（課題レポート②をもとに） 第11回目：遺伝子と発現（グループワーク） 第12回目：染色体とDNA 第13回目：DNAからタンパク質へ 第14回目：バイオテクノロジーの進歩 第15回目：生物進化と系統			
テキスト 室伏きみ子著（2009）『図解 生命科学 LIFE SCIENCE』オーム社			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 課題レポート（50%）、授業ごとの振り返りシート（50%）。			

授業科目名： 栄養生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：篠崎文夏 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
授業のテーマ及び到達目標 各栄養素の働きと生体機能との関連についての知見を修得する。			
授業の概要 栄養生理学では、栄養素と様々な食品の成長や健康における役割および代謝に対する影響を取り扱います。本科目では栄養素の代謝と栄養についての基礎、生体機能の調節および病気と栄養との関連について学びます。			
授業計画 第1回：代謝とエネルギー 第2回：糖質 第3回：脂質 第4回：タンパク質 第5回：ビタミン 第6回：ミネラル 第7回：非栄養素 第8回：消化器・肝臓と栄養 第9回：腎臓・脂肪・筋肉・運動と栄養 第10回：免疫・脳・皮膚と栄養 第11回：内分泌因子と栄養素による情報伝達・遺伝子発現制御 第12回：栄養と疾患1 メタボリックシンドロームと関連疾患 第13回：栄養と疾患2 循環器系疾患・がん 第14回：栄養と疾患3 骨粗鬆症・食物アレルギー・寿命 第15回：総まとめ 定期試験			
テキスト 小田裕昭（編集），加藤久典（編集），関泰一郎（編集）（2014）『健康栄養学—健康科学としての栄養生理化学— 第2版（ISBN978-4320061798）』共立出版			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 小テスト（14%）、定期試験（60%）、課題（26%）、追再試験を実施することがある。			

授業科目名： 生薬学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山路誠一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>自然界由来の動物・植物・鉱物(天然物)が、生薬として、サプリメント、スパイスとして、さらには医薬品、化学薬品やそれらの資源(リソース)等として利用できるようになることと、得られた製品と私たちの生活やスポーツとの関わり合いに関する基本的知識を修得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生薬学(Pharmacognosy)は薬学独自かつ薬学全分野の基礎学問である。この生薬学では医薬品としての生薬の取扱いだけでなく漢方薬、化学薬品、健康食品、サプリメントとなる製品やドーピングでの使用禁忌に至るまでの注意点や取扱い方法等について学ぶ。</p> <p>本講義では実物を知ることが重視するので、ドーピングに支障のない植物や商品の実物を用い、知識の修得以外に五感を駆使した植物や生薬鑑別の技能を養うほか、医薬品、サプリメントとなる天然物に関する総合的な知識の醸成を図る。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生薬・薬用植物の概説(1) 第2回：生薬・薬用植物の概説(2) 第3回：生薬・薬草の観察(実習形式) 第4回：生薬・薬用植物を科学的に理解する(1) 第5回：生薬・薬用植物を科学的に理解する(2) 第6回：生薬・薬用植物を科学的に理解する(3) 第7回：生薬・薬用植物を科学的に理解する(4) 第8回：日本薬局方と生薬・漢方薬 第9回：法規制のある植物と知っておきたい薬草・天然由来品とドーピング 第10回：生薬・薬用植物学各論(1) 第11回：生薬・薬用植物学各論(2) 第12回：生薬・薬用植物学各論(3) 第13回：生薬・薬用植物学各論(4) 第14回：生薬・薬用植物学各論(5) 第15回：漢方薬とその実際(実習形式)</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>水野瑞夫、木村孟淳、酒井英二、山路誠一（2013）『薬用植物学(改訂第7版)』南江堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>難波恒雄、難波洋子（1996）『世界を変えた薬用植物』創元社</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験によるマーク式による客観評価(60%) およびレポート課題(40%)により評価する。 講義3回目前後で薬用植物園・資料館を見学し薬用植物と生薬を観察しレポートにまとめる。 このレポートは評価の一部とする（見学は天候による）。このレポートは評価基準の40%程度とする。</p>			

授業科目名： 生命をミクロに理解する	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：櫻田誓 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学		
授業のテーマ及び到達目標 生物をミクロのレベルで理解するために、細胞の機能や生命活動を支える分子の役割について基本的な知識を修得する。			
授業の概要 生化学は生体の構造と機能について、ミクロ（分子）のレベルで理解することを目的とする学問です。DNA の二重らせんや遺伝子の働きから、ホルモンまでミクロレベルの理解を目指して講義します。			
授業計画 第1回：細胞内小器官 第2回：自律神経系 自律神経系の解剖学的な特徴、自律神経の拮抗的2重支配 第3回：自律神経系 自律神経系における伝達物質と受容体 第4回：ホルモン 内分泌系、ホルモンの情報伝達とその機序 第5回：ホルモン 代表的なホルモン（視床下部ホルモン、脳下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎ホルモンなど）を挙げ、その産生器官、生理活性及び作用機序 第6回：ホルモン 生殖系（精巣、卵巣、子宮など）、性ホルモン、性周期の調節機構 第7回：アミノ酸とタンパク質の構造と機能 アミノ酸の列挙とその構造、タンパク質の構造と性質 第8回：ヌクレオチドの構造、DNAとRNAの構造 ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質 第9回：セントラルドグマ、DNAの複製、PCR セントラルドグマ、DNAの複製過程、PCRの原理と応用 第10回：転写、転写制御 DNAからRNAへの転写過程、プロモーター・エンハンサー・エキソン・イントロン、RNAのプロセッシング 第11回：翻訳、翻訳後修飾 RNAからタンパク質への翻訳、タンパク質の翻訳後修飾 第12回：グループワーク1（課題発表の準備）課題発表のテーマ説明やグループ分けを行う。適切なテーマや論点を提案 第13回：グループワーク2（発表原稿の作成）提案された論点を展開して、発表原稿を作成 第14回：グループワーク3（課題発表）選んだテーマについて、適切な意見を含んだ形で発表。また、発表を聞いて、理解し評価。 第15回：講義のまとめ 項目1から14のまとめと復習 定期試験			
テキスト 林典夫、廣野治子（2020）『シンプル生化学（改訂第7版）（987-4-524-24659-5）』南江堂、櫻田忍・櫻田司編集（2018）『機能形態学（改訂第4版）（978-4-524-40356-1）』南江堂			
参考書・参考資料等 前田正知・浅野真司（2019）『コンパス生化学（改訂第2版）』南江堂 平澤栄次（2014）『はじめての生化学（第2版）』化学同人			
学生に対する評価 講義に絡めて行う小テスト・提出物（60%）とグループワーク・課題発表（40%）で評価を行う。			

授業科目名： 地学講義	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：加藤明良 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>日常生活や社会との関連を図りながら、地球や宇宙も含む地球を取り巻く環境について理解する。</li> <li>地震、火山、気象などの自然災害についての基礎的知識を理解するとともに、防災や減災に向けた社会的取り組みについて調査し、社会活動との関係について考察する。</li> <li>1. 2を通して理科教員としての資質・能力を身に付ける</li> </ol>			
授業の概要			
地球や宇宙に関する基礎的知識について理解を深め、日常生活や社会との関連について自分なりの考えを深める活動を行う。そして、日本列島という世界的にも稀な地学的事象の宝庫に住む住人として自然災害の恵みとそれを防いだり、減らしたりする取り組みについて、各自がテーマを立て調査し発表する活動を行う。			
授業計画			
第1回：ガイダンス、地学とは何か、地学を学ぶ意義やその活用 第2回：惑星としての地球の姿、地球型惑星の特徴 第3回：活動する地球、層構造とプレート運動 第4回：活動する地球、火山の特徴と噴火による災害 第5回：活動する地球、地震と津波の特徴と災害 第6回：活動する地球、気象現象と災害 第7回：活動する地球、大気と海洋（熱収支） 第8回：宇宙と地球の歴史（ビックバンから現在までの歴史観） 第9回：地球型生命の歴史（地球型生命の定義と進化の歴史） 第10回：太陽系と系外惑星（太陽系、系外惑星の特徴と地球外生命の存在） 第11回：恒星と銀河（恒星の進化と銀河の進化） 第12回：地球環境の変化、温暖化、大気や海洋汚染 第13回：自然災害の現状及び調査したいテーマを各自で設定 第14回：テーマについての調査中間報告 第15回：テーマに基づく発表と評価及び振り返り			
テキスト			
授業ごとに適宜資料を配付			
参考書・参考資料等			
高等学校「地学基礎」又は「地学」教科書（各社） 『中学校学習指導要領理科編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領理科編』（文部科学省）			
学生に対する評価			
毎時の確認テスト（60％）。授業時の課題や発表内容（40％）。			

授業科目名： 地球環境と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：村橋毅 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学		
授業のテーマ及び到達目標 人の健康維持と生活環境の保全に貢献できるようになるために、地球環境に関する基本的な知識を修得する。			
授業の概要 近年、人間は生活の豊かさと利便性を追及した結果、生産活動の拡大、急速な人口増加、地球規模の環境破壊が問題となり、今や人類の生存の基盤をも脅かすまでになっている。この講義では、地球環境および生態系の変化を解説する。すなわち、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、森林破壊、砂漠化等の原因および現状、生態系・人体への影響等について解説する。また、これらの地球規模の環境問題に対する国際的協調の現状、エネルギー問題やライフスタイルの変化を含めた対応策を講義する。これらの講義を通して、地球環境の重要性および地球環境保護活動の必要性を認識する。			
授業計画 第1回：地球環境と生態系 第2回：地球環境問題(1)、オゾン層の破壊 第3回：地球環境問題(2)、地球温暖化 第4回：地球環境問題(3)、酸性雨と海洋汚染 第5回：地球環境問題(4)、森林の破壊と砂漠化 第6回：地球環境問題(5)、生物多様性の減少と有害廃棄物の越境移動 第7回：発表（学生グループA） 第8回：発表（学生グループB） 第9回：発表（学生グループC） 第10回：発表（学生グループD）			
テキスト 教員作成資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 レポート(50%)、発表(50%)の合計。第1～6回の講義については、各回のテーマについて、レポート用紙1枚にまとめる：(10点)レポートを提出した、(20点)期限が守られた、(30点)必要なキーワードが入っていた、(40点)説明は正しかった、(50点)環境保全に対する心構えが盛り込まれていた。 第7～10回の発表では、自分が居住している地域(あるいは帰省先)の環境問題について発表する：(10点)発表した、(20点)発表時間を満たしていた、(30点)まとまりがある説明であった、(40点)問題点と解決策が分かりやすく説明されていた、(50点)環境保全に対する心構えが説明されていた。			

授業科目名： 物理学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：西尾信一 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 物理学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 物理学のさまざまな分野について、基礎的な物理実験を扱う。とくに授業での利用を想定した実験を体験し、指導計画・準備・実施・活用についての理解を深め、教員としての資質を養う。			
授業の概要 特別な測定器具を用いるのではなく、PCやスマホ、簡単に入手できる材料などで行える実験を扱う。実験書の手順通りに作業をこなすのではなく、実験の目的や意義などを十分に検討して議論することを重視する。			
授業計画 第1回：ガイダンス、受講の心得、安全指導 第2回：PC・スマホとインターネットの実験への活用 第3回：静力学に関する実験 第4回：動力学に関する実験 第5回：圧力に関する実験 第6回：熱とエネルギーに関する実験 第7回：波の性質に関する実験 第8回：音に関する実験 第9回：光に関する実験 第10回：静電気に関する実験 第11回：電流と電圧に関する実験 第12回：磁気に関する実験 第13回：原子と放射線に関する実験 第14回：多分野に係る実験 第15回：補足とまとめ			
テキスト 初田真知子・伊地知国夫・矢田雅哉（2022）『身近な素材で実験する物理』丸善出版			
配付資料			
参考書・参考資料等 高見寿・岡山物理アカデミー（2009）『教室でできる5分間ぶつり実験』日本評論社			
学生に対する評価 レポート等提出物（80％）。観察記録（授業時間中の活動・態度）（20％）。			

授業科目名： 化学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 和田重雄、長谷川登志夫 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 化学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 物質の学問である化学において、物質の特徴を実際に観察することと、その観察・計測する主義を習得することを目的とする。			
授業の概要 特に化学で注意しなければならない物質や実験器具の扱い方を学習したのち、種々の化学物質の特性を体感する実験を行っていく。各回レポートを作成し、各実験で習得した知識・技能を確認するとともに、それらを他人にわかりやすく伝えることも検討する。			
授業計画 第1回：実験ガイダンス、安全管理・危機管理（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第2回：実験器具の扱い方、炎色反応の観察（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第3回：混合物の分離に関する実験（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第4回：反応熱の計測（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第5回：アボガドロ数の算出（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第6回：溶液の調製・希釈（%濃度、モル濃度計算含む）（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第7回：化学反応の定量（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第8回：中和滴定（食酢中の酸の定量）（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第9回：酸塩基混合物、各種塩水溶液のpH計測（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第10回：コンピュータによる中和滴定曲線作成（pH算出）（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第11回：イオン化傾向、化学電池（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第12回：有機合成、サリチル酸メチル、各種エステル等の生成（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第13回：有機化合物（含糖類）の呈色反応（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第14回：アミノ酸・タンパク質の定性・定量分析（担当：和田重雄、長谷川登志夫） 第15回：補足とまとめ（担当：和田重雄、長谷川登志夫）			
テキスト 担当教員作成資料、化学同人編集部編「続 実験を安全に行うために第4版」化学同人。			
参考書・参考資料等 化学同人編集部編「実験を安全に行うために第8版」・「続続実験を安全に行うために失敗事例集」化学同人、山口和也、山本仁著「基礎化学実験安全オリエンテーション」東京化学同人			
学生に対する評価 各回のレポート（80%）、実験態度（参加度合い、積極性）（20%）			

授業科目名： 生物学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 菌部幸枝、和田重雄 担当形態：オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生物学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 生物学を観察・実験を通して学ぶ際の、意義、基本技能とその指導法を修得する。			
授業の概要 生物学実習では、中学校及び高等学校理科の学習に関連する内容について、教師の立場に立って指導する場面を想定して、学習の意義と指導法の留意点について見出す授業を展開します。			
授業計画 第1回目：植物の観察とルーペや双眼実態顕微鏡の使い方（担当：菌部幸枝） 第2回目：生物の増殖と光学顕微鏡の使い方（担当：菌部幸枝） 第3回目：花粉管の伸長実験と観察（担当：菌部幸枝） 第4回目：植物色素とペーパークロマトグラフィー（担当：菌部幸枝） 第5回目：植物色素とpH（担当：菌部幸枝） 第6回目：無脊椎動物（軟体動物や甲殻類）の解剖と観察（担当：菌部幸枝） 第7回目：動物発光の実験（担当：菌部幸枝） 第8回目：消化酵素の実験（担当：菌部幸枝） 第9回目：生物と環境応答（担当：菌部幸枝） 第10回目：動物臓器の観察（担当：和田重雄） 第11回目：遺伝のしくみとPCシミュレーション（担当：和田重雄） 第12回目：DNA抽出実験（担当：和田重雄） 第13回目：学外施設（科学博物館・動植物園等）の見学（1）生命の進化と動物の多様性（担当：菌部幸枝・和田重雄） 第14回目：学外施設（科学博物館・動植物園等）の見学（2）生命の進化と植物の多様性（担当：菌部幸枝・和田重雄） 15回目：捕捉とまとめ（担当：菌部幸枝・和田重雄）			
テキスト 担当教員が作成した資料を配付			
参考書・参考資料等 嶋田正和監修（2022年）『新課程 生物図録 視覚でとらえるフォトサイエンス』数研出版			
学生に対する評価 各回のレポート（80%）、実験態度（参加度合い、積極性）（20%）			

授業科目名： 地学基礎実験	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：加藤明良 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目(中学及び高等学校 理科)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 地学実験（コンピュータ活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地球や宇宙も含めた地球を取り巻く環境に関する観察や実験を通して、自然を安全に探求する技能を身に付ける。</li> <li>2. 観察や実験から身の回りの地学現象への関心を持ち、科学的な思考力を高め、将来教員として必要な力量を習得する。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>スケールが大きく、実際に手に取って再現することが難しい地学現象について身の回りのモノを使った観察、実験を数多く行い、実体験を伴った理解を深める。また、実際に屋外に出かけ、地層や岩石、化石等の観察や天体観測を行うことで、自然観察の手法やポイントを知り自然の素晴らしさ体験する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、地学実験の基礎・基本について(観察・実験器具の取り扱い、安全性について)</p> <p>第2回：身近な岩石(堆積岩、火成岩、変成岩)を観察し、その特徴や見分け方についての生徒向け資料を作成する。以下、同様の視点でレポートを作成</p> <p>第3回：岩石プレパラートの作成と偏光顕微鏡観察</p> <p>第4回：寒天や小麦粉による地層モデル(断層、不整合)作成と観察</p> <p>第5回：食品を使用した火山噴火モデルの作成と観察</p> <p>第6回：野外巡検1（秩父小鹿野町ヨーバケと化石の観察）</p> <p>第7回：野外巡検2（秩父小鹿野町ヨーバケと化石の観察）</p> <p>第8回：野外巡検3（浅間山鬼押し出し、ジオパーク見学）</p> <p>第9回：野外巡検4（浅間山鬼押し出し、ジオパーク見学）</p> <p>第10回：簡易気象観測器具の作成とキャンパス内微細気象の観測</p> <p>第11回：気象現象モデル実験（霧や雲の発生、陸海風モデル）</p> <p>第12回：天体望遠鏡の使い方と太陽黒点観測</p> <p>第13回：国立天文台作成シミュレーションソフトMitakaについて知る</p> <p>第14回：Mitakaの機能を使って生徒向け天文教材を作成</p> <p>第15回：作成した天文教材の発表会と相互評価及び活動の振り返り</p>			
テキスト			
授業中に適宜資料を配付する。			
参考書・参考資料等			
<p>高等学校「地学基礎」又は「地学」教科書（各社）</p> <p>なお、各回とも事前に指示した身の回りの物品等を持参してもらう場合がある。</p>			
学生に対する評価			
各観察・実験レポート（100%）			

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村橋毅 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた 内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人々の「健康づくり」に貢献することを目標として、健康と社会・環境に関する基本的知識を修得するとともに、社会生活にとって必要不可欠である健康の維持と増進、疾病の予防、健康管理、環境保健、健康教育、衛生行政、医療制度などの公衆衛生に関する知識を体系的に学習し、総合的に考察できるように理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>公衆衛生学は個人あるいは集団社会の組織的な活動を通じて、健康増進と疾病の予防を考え、社会に寄与することを目的とした学問である。本講義では、人々の「健康づくり」に貢献するために、公衆衛生の基本理念、保健統計、疫学、健康と疾病予防、環境保健、衛生行政、母子保健、労働衛生、学校保健、高齢者医療及び介護、保健医療制度などに関する理解を深め、基本的知識を修得できるように解説する。また、環境汚染問題、社会の疾病構造の変化、生活習慣の現状と対策、医療の現状と課題、少子高齢社会の実態、精神疾患による健康の破綻、貧困と健康など現代社会で起こっている問題を広く取り上げ、その問題を取り巻く社会情勢について考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：保健統計  第2回：感染症の予防  第3回：生活習慣病の予防  第4回：栄養(糖質・脂質・タンパク質の役割・消化・吸収・代謝)  第5回：栄養(ビタミン・ミネラルの役割と欠乏症)  第6回：栄養の管理  第7回：食品衛生  第8回：保健機能食品、食品の安全  第9回：食中毒  第10回：化学物質の毒性  第11回：化学物質の安全使用  第12回：地球環境と生態系  第13回：上水道と下水道  第14回：水環境と廃棄物  第15回：大気環境、室内環境</p>			
<p>テキスト</p> <p>今井浩孝、小椋康光編（2023）『衛生薬学 基礎・予防・臨床 改定第4版』南江堂</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポートで評価する。1回あたり2枚で、各回に指示する課題をまとめる。各回5位点満点で15回分を集計し、100点満点に換算する。（小数点以下は四捨五入）（1点）レポートを提出した。（2点）期限が守られた。（3点）必要なキーワードが入っていた。（4点）説明は正しかった。（5点）公衆衛生に対する心構えが盛り込まれていた。</p>			

授業科目名： 理科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、加藤明良 担当形態：オムニバス
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校・高等学校学習指導要領理科の目標や内容を理解し、基本的な学習指導や学習評価について理解する。その上で、学習指導案を作成する準備をする。			
授業の概要 まず、理科教育の歴史や国内外の学力調査の視点から、我が国の理科教育の現状と課題を考えることによって、中学校・高等学校学習指導要領理科の目標や内容を本質的に理解する。次に、基本的な学習指導や学習評価について学び、学習指導案を作成する準備をする。最後に、中学校・高等学校理科の学習内容を詳しくみつめ直し、教材研究の重要性を理解した上で、学習指導案を充実させる。			
授業計画 第1回：理科教育の変遷と現状（担当：和田重雄） 第2回：国内外の学力調査と教育の課題（担当：和田重雄） 第3回：中学校学習指導要領理科の概要（担当：和田重雄） 第4回：高等学校学習指導要領理科の概要（担当：和田重雄） 第5回：「指導と評価の一体化」のための学習評価（担当：和田重雄） 第6回：情報通信技術を活用した理科教育（担当：和田重雄） 第7回：理科教育における観察・実験についての教材研究（担当：和田重雄） 第8回：学習指導案の概要（担当：加藤明良） 第9回：中学校理科の内容と教材研究（「エネルギー」領域・「粒子」領域）（担当：加藤明良） 第10回：中学校理科の内容と教材研究（「生命」領域・「地球」領域）（担当：加藤明良） 第11回：高等学校理科の内容と教材研究（化学）（担当：和田重雄） 第12回：高等学校理科の内容と教材研究（生物）（担当：和田重雄） 第13回：高等学校理科の内容と教材研究（物理）（担当：和田重雄） 第14回：高等学校理科の内容と教材研究（地学）（担当：和田重雄） 第15回：高等学校理科の内容と教材研究（科学と人間生活）（担当：和田重雄）			
定期試験			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省(学校図書)、「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版)、「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）、「「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
配付資料			
参考書・参考資料等 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 定期試験（40%）と授業時に提示する課題（60%）で評価する。			

授業科目名： 理科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菌部幸枝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 基礎的な学習指導理論や情報通信技術の効果的な活用を理解した上で、学習指導案を作成する。その上で模擬授業を実施し、振り返りを通して授業改善の視点を身に付ける。			
授業の概要 まず、基礎的な学習指導理論や情報通信技術の効果的な活用の重要性を理解した上で、主に中学校理科の範囲の教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を実施する。情報通信技術を活用した授業についても同様に模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りでは、自身や他の受講生も授業の評価とともに、授業改善の視点や生涯にわたり授業改善に取り組んでいこうとする姿勢を身に付ける。また、生徒に対する学習評価についても検討する。			
授業計画 第1回：学習指導案作成の概説 第2回：情報通信技術を活用、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業例 第3回：「指導と評価の一体化」を目指した学習指導案の作成法 第4回：中学校理科「エネルギー」・「粒子」領域の教材研究 第5回：中学校理科「エネルギー」・「粒子」領域の指導案作成 第6回：中学校理科「エネルギー」・「粒子」領域の模擬授業の実施 第7回：模擬授業の振り返り、学習評価の方法、学習指導案の再検討 第8回：中学校理科「生命」・「地球」領域の教材研究 第9回：中学校理科「生命」・「地球」領域の指導案作成 第10回：中学校理科「生命」・「地球」領域の模擬授業の実施と振り返り 第11回：中学校理科の情報通信技術を活用した教材研究 第12回：中学校理科の情報通信技術を活用した指導案作成 第13回：中学校理科の情報通信技術を活用した模擬授業の実施と振り返り 第14回：中学校理科での探究的な学習を目指す教材研究と指導案作成 第15回：まとめ；中学校理科の教材研究、授業設計、指導案作成、学習評価			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
配付資料			
参考書・参考資料等 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業時に提示する課題、作成した指導案、開発した教材、模擬授業の教員による評価（60%）。開発した教材、模擬授業の受講生による相互評価（20%）。本科目総括レポート（20%）。			

授業科目名： 理科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：和田 重雄
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 背景となる学問領域との関係や発展的な学習内容、実践研究の動向を理解した上で学習指導案を作成する。模擬授業の実施、振り返りを通して授業改善の視点を身に付け、実践的な指導力を育む。			
授業の概要 高等学校の理科の科目；「化学」、「生物」、「物理」・「地学」において、観察・実験の導入、情報通信技術の活用を伴う教材研究、指導案の作成、模擬授業を実施する。模擬授業の振り返りを通じて、授業改善の視点を確認していく。さらに、「科学と人間生活」の指導案を作成する。高等学校理科の全貌がつかめたところ、発展的な学習内容を取り入れた授業の実践研究も行き、幅広い視野に立って高等学校の理科の授業設計の向上取り組める能力を高める。			
授業計画 第1回：理科教育における観察・実験・発展的な学習、情報通信技術の活用 第2回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（化学）の教材研究 第3回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（化学）の指導案作成 第4回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（化学）の模擬授業実施 第5回：模擬授業の振り返りと学習指導案の再検討 第6回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（生物）の教材研究 第7回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（生物）の指導案作成 第8回：観察・実験を取り入れた高等学校理科（生物）の模擬授業実施と振り返り 第9回：情報通信技術を活用した高等学校理科（物理・地学）の教材研究 第10回：情報通信技術を活用した高等学校理科（物理・地学）の指導案作成 第11回：情報通信技術を活用した高等学校理科（物理・地学）の模擬授業実施と振り返り 第12回：高等学校理科（科学と人間生活）の教材研究と指導案作成 第13回：薬学の内容を取り入れた高等学校理科の授業の実践研究 第14回：発展的な学習内容を含む高等学校理科の教材研究と指導案作成 第15回：まとめ；高等学校理科の教材研究、授業設計、指導案作成			
テキスト 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
配付資料			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 授業時に提示する課題、作成した指導案、開発した教材、模擬授業の教員による評価（60%）。開発した教材、模擬授業の受講生による相互評価（20%）。本科目総括レポート（20%）。			

授業科目名： 理科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、加藤明良 担当形態：複数
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 理科）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 生徒が主体的に学習できる観察・実験・探究活動に特化した教材開発、学習指導案を作成する。模擬授業の実施、振り返りを通して、観察・実験・探究活動のプロセスを学ぶ。			
授業の概要 まず、観察・実験・探究活動について詳しく学び、その上で教材研究した後、オリジナルの観察・実験教材を開発する。それを利用した学習指導案を作成し、模擬授業の実施し、その振り返りを通して、観察・実験を伴う授業の学習評価、授業実践の視点を確認する。その後、探究活動という視点での授業実践に必要な技法を学習し、探究能力を育む授業運営の方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：理科教育における主体的な観察・実験・探究活動（担当：和田重雄、加藤明良） 第2回：理科教育における情報通信技術を活用、実験教材の開発（担当：和田重雄、加藤明良） 第3回：観察・実験・探究活動における安全教育と安全管理（担当：和田重雄、加藤明良） 第4回：観察・実験・探究活動における授業計画、課題と仮説の設定、学習評価（担当：和田重雄、加藤明良） 第5回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材の研究（担当：和田重雄、加藤明良） 第6回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材の開発（担当：和田重雄、加藤明良） 第7回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材の開発と指導案作成（担当：和田重雄、加藤明良） 第8回：中学校、高等学校理科で活用可能な観察・実験教材を利用した模擬授業実践（担当：和田重雄、加藤明良） 第9回：授業実践の振り返り、学習評価方法の検討（担当：和田重雄、加藤明良） 第10回：理科における探究活動の実践研究（担当：和田重雄、加藤明良） 第11回：理科における探究活動の授業計画と課題設定（担当：和田重雄、加藤明良） 第12回：理科における探究活動の実験計画、実験結果、考察（担当：和田重雄、加藤明良） 第13回：理科における探究活動のレポート作成、プレゼンテーション（担当：和田重雄、加藤明良） 第14回：理科における探究活動の探究プロセスの繰り返しを重視した課題設定（担当：和田重雄、加藤明良） 第15回：理科における探究活動の学習評価と授業運営（担当：和田重雄、加藤明良）			
定期試験			
テキスト 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
配付資料			
参考書・参考資料等 「中学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(学校図書) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社） 中学校・高等学校で使用した理科の教科書等			
学生に対する評価 定期試験（30％）、授業時に提示する課題、作成した指導案、開発した教材、模擬授業の教員による評価（50％）。開発した教材、模擬授業の受講生による相互評価（20％）。			

授業科目名： 道徳教育	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 必修科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 馬場久志、大井はるえ 担当形態：オムニバス
科 目	教職に関する科目（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・道徳教育の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解できる。 ・学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解できる。			
<b>授業の概要</b> 道徳教育の意義や法的位置づけをふまえて、道徳教育について学習指導要領に示された目標や内容、指導と評価等を理解し、生徒の発達過程に応じた道徳上の諸課題について考察する。また道徳教育の歴史的変遷について理解を深め、現代社会における道徳的な諸課題を見出し、学校や日常での身近な課題として「いじめ」や「情報モラル」等にも着目して、グループ討議も経て考察する。その上で、中学校の道徳の授業づくりを体験的に学習し、学習指導案を作成して模擬授業を行い、振り返りを通じて授業改善を行う一連のサイクルに即して学習する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション 道徳教育の目標と内容（担当：大井はるえ） 第2回：道徳の理論①道徳性の発達（担当：大井はるえ） 第3回：道徳の理論②ケアの倫理（担当：大井はるえ） 第4回：道徳の実践事例 哲学対話の活用（担当：大井はるえ） 第5回：道徳の理論③グローバル・シチズンシップ（担当：大井はるえ） 第6回：道徳の理論④市民性の教育（担当：大井はるえ） 第7回：道徳の理論⑤学校教育における道徳教育（担当：大井はるえ） 第8回：道徳の実践事例 読み物教材の活用（担当：大井はるえ） 第9回：道徳の授業づくり①目標・教材・方法（担当：大井はるえ） 第10回：道徳の授業づくり②学習指導案の作成方法（担当：大井はるえ） 第11回：道徳の学習指導案の作成（自分自身、人との関わり）（担当：馬場久志） 第12回：道徳の学習指導案の作成（集団や社会、生命や自然、崇高なものとの関わり）（担当：馬場久志） 第13回：道徳の模擬授業の実施と評価（自分自身、人との関わり）（担当：馬場久志） 第14回：道徳の模擬授業の実施と評価（集団や社会、生命や自然、崇高なものとの関わり）（担当：馬場久志） 第15回：模擬授業の振り返りと授業改善（担当：馬場久志）			
<b>定期試験</b> <b>テキスト</b> 『中学校学習指導要領』（文部科学省平成29年告示），『中学校学習指導要領解説編 特別の教科 道徳編』（文部科学省平成29年告示），ほか毎回配付資料を用いる。			
<b>参考書・参考資料等</b> 事前・事後学修のために随時紹介する。			
<b>学生に対する評価</b> 定期試験（60％）と課題の提出（40％）により総合的に評価する。			

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：杉山雅宏 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
【授業のテーマ】日本国憲法の基本的な原理や概念を判例や時事問題を紹介しつつ説明し、教育における憲法について理解を深める。			
【到達目標】			
1. 日本国憲法の条文に刻まれた歴史に思いをはせ、現在の諸問題にも関心を持つことができる。			
2. 日本国憲法の基本原理や構成について説明することができる。			
3. 基本的人権の種類や内容について説明することができる。			
4. 憲法の基本的な論点について、主体的に考えることができるようになる。			
授業の概要			
大学において教職課程を履修する学生に対し、憲法の規定する人権と統治機構の基本を押さえながら、様々な現実の憲法問題に法的思考力を持たせることができるような講義を展開する。具体的な判例や、実際に生じている事件などを題材に学び、受講生が日本国憲法の基礎的な知識を身につけ、その知識を具体的な問題を考える際に使いこなせるようにしたい。			
授業計画			
第1回：日本国憲法の成立と基本原理（憲法思想と歴史）			
第2回：日本国憲法における教育権論争について			
第3回：個人の尊厳と基本的人権のスタイルについて			
第4回：学校にいる人（教師・子ども）の権利について			
第5回：政教分離とは何か：宗教と公立学校。			
第6回：プライバシーとは何か：教育情報の本人開示と公開について。			
第7回：教育を受ける権利について：1人ひとりにふさわしい教育の確保			
第8回：子どもの自己決定権について			
第9回：経済的自由権、生存権、労働権、労働基本権について			
第10回：国民主権と参政権：政治の主役は誰なのか			
第11回：政治的中立性とは			
第12回：教育を枠づける国の統治の仕組みについて（国会・内閣・裁判所）			
第13回：地方自治：教育委員会は何をしているところか			
第14回：平和主義について			
第15回：日本国憲法のまとめ			
テキスト			
斎藤一久・城野一憲編『教職のための憲法』ミネルヴァ書房 ISBN：978-4623089352			
参考書・参考資料等			
毎回の講義で必要な資料は適宜配布する。			
学生に対する評価			
毎回の授業における小レポート（80％）、課題レポート（20％）。			

授業科目名： 球技系種目Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永修司、縣右門、木村浩吉 担当形態： 複数・オムニバス
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の概念を自身が運動を通じて実感し、ヒトの健康増進に貢献するための素養を養う。</li> <li>・運動を通じてコミュニケーション能力を醸成する。</li> <li>・サッカーの基本的な指導ができる人材を養成する。</li> </ul>			
授業の概要			
実践力や指導力を身につける事を目的とし、健康増進やコミュニケーション能力醸成を目指す。			
授業計画			
第1回：「サッカー」について（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」の特性及び授業展開計画等のオリエンテーション			
第2回：ゲームとコーディネーション（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」のゲームとコーディネーションについて学ぶ			
第3回：観る（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践ができていないか指導者目線で観る。			
第4回：シュート（担当：木村浩吉、縣右門） シュートについての技術を学ぶ			
第5回：攻撃（ポゼッション）（担当：木村浩吉、縣右門） 攻撃的ポジションについての技術や戦術について学ぶ			
第6回：パス&コントロール（担当：木村浩吉、縣右門） ボールコントロールに関する技術の習得			
第7回：指導実践①（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践①			
第8回：指導実践②（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践②			
第9回：指導実践③（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じてルールを理解と審判法を学ぶ。			
第10回：指導実践・実技振り返り①（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じて指導者法、運営法、協力の精神と社会性を学んだことを振り返る①			
第11回：指導実践・実技振り返り②（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じて指導者法、運営法、協力の精神と社会性を学んだことを振り返る②			
第12回：発育発達（担当：木村浩吉、松永修司） こどもの発育発達について学ぶ			
第13回：メディカルの知識（担当：木村浩吉、松永修司） 怪我や応急処置などの医学的知識を学ぶ			
第14回：コーチング法Ⅰ（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーのコーチングスキルについて理論的に学ぶ			
第15回：指導者の役割Ⅰ（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーの指導者の役割について学ぶ			
テキスト			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介していきます。			
学生に対する評価 授業態度（20%）、技術（80%）で評価する。			

授業科目名： 球技系種目Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松永修司、縣右門、木村浩吉 担当形態： 複数・オムニバス
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康の概念を自身が運動を通じて実感し、ヒトの健康増進に貢献するための素養を養う。</li> <li>運動を通じてコミュニケーション能力を醸成する。</li> <li>サッカーの基本的な指導ができる人材を養成する。</li> </ul>			
授業の概要			
実践力や指導力を身につける事を目的とし、健康増進やコミュニケーション能力醸成を目指す。			
授業計画			
第1回：「サッカー」について（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」の特性及び授業展開計画等のオリエンテーション			
第2回：ゲームとコーディネーション（担当：木村浩吉、縣右門） 「サッカー」のゲームとコーディネーションについて学ぶ			
第3回：観る（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践ができていないか指導者目線で観る。			
第4回：シュート（担当：木村浩吉、縣右門） シュートについての技術を学ぶ			
第5回：攻撃（ポゼッション）（担当：木村浩吉、縣右門） 攻撃的ポジションについての技術や戦術について学ぶ			
第6回：パス&コントロール（担当：木村浩吉、縣右門） ボールコントロールに関する技術の習得			
第7回：指導実践①（担当：木村浩吉、縣右門） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践①			
第8回：指導実践②（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる技術の習得及び誰もが楽しく、協力し行えるレクリエーション的運動方法の取得・実践②			
第9回：指導実践③（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じてルールを理解と審判法を学ぶ。			
第10回：指導実践・実技振り返り①（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じて指導者法、運営法、協力の精神と社会性を学んだことを振り返る①			
第11回：指導実践・実技振り返り②（担当：木村浩吉、松永修司） グループによる試合形式の実践及び試合を通じて指導者法、運営法、協力の精神と社会性を学んだことを振り返る②			
第12回：発育発達（担当：木村浩吉、松永修司） こどもの発育発達について学ぶ			
第13回：メディカルの知識（担当：木村浩吉、松永修司） 怪我や応急処置などの医学的知識を学ぶ			
第14回：コーチング法Ⅱ（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーのコーチングスキルについて理論的に学ぶ			
第15回：指導者の役割Ⅱ（担当：木村浩吉、松永修司） サッカーの指導者の役割について学ぶ			
テキスト			
参考書・参考資料等 授業内で適宜紹介していきます。			
学生に対する評価 授業態度（20%）、技術（80%）で評価する。			

授業科目名： 入門英会話	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：B. スミス 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義は、英語のさまざまな側面を学び、実践できるようになることを目標としています。スピーキングとリスニングに重点をおいていますが、ライティング、リーディング、文法も学習します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、ペア/グループワーク、ロールプレイ、ディクテーションなどを中心に組み立てています。英会話の実践的な練習に重点をおいています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション</p> <p>第2回：自己紹介①</p> <p>第3回：自己紹介②</p> <p>第4回：自己紹介③</p> <p>第5回：現在進行形①</p> <p>第6回：現在進行形②</p> <p>第7回：現在進行形③</p> <p>第8回：頻度を表す副詞①</p> <p>第9回：頻度を表す副詞②</p> <p>第10回：復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor (2017) 『Interchange Level 1 Student's Book with Online Self-Study』 Cambridge University Press</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>クイズ (20%) , 定期試験 (80%)</p>			

授業科目名： 実践英会話	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：B. スミス 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この講義は、英語のさまざまな側面を学び、実践できるようになることを目標としています。スピーキングとリスニングに重点をおいていますが、ライティング、リーディング、文法も学習します。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、ペア/グループワーク、ロールプレイ、ディクテーションなどを中心に組み立てています。英会話の実践的な練習に重点をおいています。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション  第2回：単純過去時制①  第3回：単純過去時制②  第4回：単純過去時制③  第5回：現在完了形①  第6回：現在完了形②  第7回：現在完了形③  第8回：前置詞①  第9回：前置詞②  第10回：復習</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>Jack C. Richards with Jonathan Hull and Susan Proctor (2017) 『Interchange Level 1 Student's Book with Online Self-Study』 Cambridge University Press</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>クイズ (20%) , 定期試験 (80%)</p>			

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：村井保之 担当形態：単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 情報化社会で必要となる情報機器やインターネットに関する、ハードウェアやソフトウェアの知識、安全かつ有効に活用する知識と方法、情報倫理とルールに関する知識を修得する。なお、この科目は数理・データサイエンス・AI プログラム(リテラシーレベル)の対象科目です。			
<b>授業の概要</b> 大学生活や将来社会人として必要なITの基礎知識の習得を目的とする。身近なSNSなどのコミュニケーションツールから、ネットの脅威やウイルスなどのセキュリティ、著作権や情報倫理、生活の中で使われる情報システム、これらを構成する基本的な技術、ネットワークやインターネットに関する技術、コンピュータや各種情報機器のハードウェアに関する技術、それらを動作させるためのソフトウェアに関する基本的な技術について、講義と演習を中心に学生が主体的に取り組める授業とする。国家試験「ITパスポート」にも対応する。			
<b>授業計画</b> 第1回：インターネットの利用 第2回：情報倫理とルール 第3回：情報化社会 第4回：情報やメディアに関する技術(1) 二進数、十進数、二進数を相互に変換、ビットやバイトなどのデータ量 第5回：情報やメディアに関する技術(2) 標本化と量子化、エラー検出と訂正、バーコード 第6回：ネットワークの技術(1) TCP/IPとDNS、プロトコル、ファイアウォール 第7回：ネットワークの技術(2) HTMLとスクリプト、WebサーバとHTTP、Webのセキュリティ 第8回：ネットワークの技術(3) LANとWiFi、携帯電話システム 第9回：ハードウェアの技術(1) パソコンの構成要素・OS 第10回：ハードウェアの技術(2) イメージングデバイスと画素数・解像度、入出力装置 第11回：ハードウェアの技術(3) インターフェース、不正コピー防止 第12回：ソフトウェアの技術(1) OS、マルチタスクと仮想化技術、プログラミングとソフトウェアの開発方法 第13回：ソフトウェアの技術(2) アルゴリズムと計算量、ユーザインタフェース 第14回：ソフトウェアの技術(3) データベースとデータウェアハウス、クラウドコンピューティング 第15回：まとめ			
<b>テキスト</b> 『キーワードで学ぶ最新情報トピックス2023』日経BP 『改訂4版情報モラル&情報セキュリティ(978-4-938927-52-3)』富士通エフ・オー・エム(FOM出版) 授業ではオンラインの動画等を利用しますのでPCやタブレットなどが必要です。			
<b>参考書・参考資料等</b>			
<b>学生に対する評価</b> 授業中に実施する課題で(100%)評価する。			

授業科目名： 教育基礎論（原理・ 教育史）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺崎恵子 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>広い視野と豊かな感性をもって教育の理念の実現に向けて探究する力を培うことがこの授業の主題である。「子どもの権利条約」の四つの原則と「こども基本法」の基本理念の理解に基づく教育の理念と基本的な概念を理解する。近代学校教育制度の成立と展開の過程を把握して、子どもの権利をめぐる社会的文化的活動に関心を寄せて、現代社会の教育課題を歴史的な視座から理解する。代表的な教育家の思想を参照して、子どもの成育と学習に関わる教育の思想の本意を把握する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「人は教育を通じて人間になる」と言われる。教育に関する様々な議論は、学校教育をめぐる課題を提起しながら、その内実として人間の生き方を問い続けている。教育（education）の原義「生を養い育てる」や学校（school）の原義「閑暇、自由時間」等をふまえて、子どもと大人が共に生きる生活文化のありように教育の諸事象を捉える。多様性を認めあう現代社会において異世代が関わり合う教育の課題と向き合っていくには、子どもの権利保障に基づく教育の理念や概念の理解と熟慮が欠かせない。古今の教育論の歴史的・社会的背景に関心を向けて思想史や文化史の知見を参照しながら各回の内容理解を深め、自分自身の教育観を涵養する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育の原義（1）〈教〉の生活世界…明治期学校教育制度成立過程のなかで 第2回：教育の原義（2）〈育〉の生活世界…誕生から始まる子どもと大人の関係 第3回：ライフサイクル論と発達観…異世代間の交流と子ども期への関心 第4回：通過儀礼と異校種間連携・接続…次世代への文化的継承のかたち 第5回：自学から教授への転回…遍歴学生の生き方に学ぶ 第6回：教育主体と学習主体の相互的關係構造（1）積極性 第7回：教育主体と学習主体の相互的關係構造（2）消極性 第8回：観察力と学習活動…興味・関心の〈三項関係〉と〈概念くだけ〉 第9回：感覚と知性…〈子どもの理性〉と直観教授 第10回：教養と人間形成…言語習得と自己認識、そして自己実現へ 第11回：近代学校教育の構図（1）教材・教具と生活経験 第12回：近代学校教育の構図（2）学習集団と競争心 第13回：近代学校教育の構図（3）改暦の影響と生活時間 第14回：個人の学びと協同の学び…地域社会への参加と居場所づくり 第15回：これからの教育の可能性…青年期の発達に即して</p>			
<p>テキスト</p> <p>広岡義之編『教職をめざす人のための教育用語・法規』（ミネルヴァ書房） 中学校学習指導要領（平成29年3月告示）文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）文部科学省</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小口尚子、福岡鮎美『子どもによる 子どものための「子どもの権利条約」』（小学館） 佐藤秀夫『教育の文化史』全4巻（阿吽社） そのほか、資料プリントを適宜配布する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業課題（ノート作成、小レポート）75%、期末課題 25%</p>			

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：安原輝彦 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教職の意義、教員の役割、教員の職務内容など、今後の教員の在り方について、法令上の規定、これまでの歴史的な経緯を含め、社会的意義など幅広く学習する。また、教職に就くまでの学びだけでなく、学び続ける教員としての研修の在り方についても考察する。また、時代の変化とともに学校内外での学校課題解決に向けた「チーム学校」の具体的な事例の学習を通して、教職員が学校内外の専門家等と連携・協働する重要性やその在り方への理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職の意義や教員の役割、資質能力・職務内容等について基本的な知識・考え方を理解し、教職に必要な資質、能力について学び、教職への意欲を高める。また、学校を巡って日々の生活や学習に困難を抱える児童・生徒への対応、保護者や地域課題への対応など、教師が向き合う課題は多様性と複雑さを増していることから、これまで以上に時代や社会の変化に向き合い、生涯にわたって学び続ける自覚が求められている。そこで「チーム学校」への対応など、学校の内外との連携も重視し、組織として諸課題に対応することも学ぶ。学校教育や学校教員の現状や諸課題をふまえつつ、教職についての理解を深めていきたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション及び授業概要、教職の社会的な位置を学ぶ  第2回：教職という職業の特徴を学ぶ  第3回：学校制度や教職の歴史について学ぶ  第4回：教職の専門性を磨くための教員養成や研修等の制度について学ぶ  第5回：教育公務員としての服務及び身分保障、権利と義務について学ぶ  第6回：現代の学校と教師の資質・役割（1）教科指導  第7回：現代の学校と教師の資質・役割（2）生活・生徒指導、教育相談  第8回：現代の学校と教師の資質・役割（3）学校経営と学級経営について学ぶ  第9回：現代の学校と教師の資質・役割（4）特別な支援を必要とする子どもたちへの教育  第10回：現代の学校と教師の資質・役割（5）進路指導、キャリア教育  第11回：現代の学校と教師の資質・役割（6）人権教育、環境教育、現代的課題解決に向けた教育  第12回：学校・教職員をめぐる教育動向と子どもの変容（1）「チームとしての学校」  第13回：学校・教職員をめぐる教育動向と子どもの変容（2）地域・家庭・多様な専門家との連携  第14回：学び続ける教師と変化する学校  第15回：職務の全体像の把握への問い</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト 特に指定はしない。  各回の授業に関する事前学習・事後学習の具体的な課題については、授業時に指示します。</p> <p>参考書・参考資料等</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>定期試験評価50%  レポート評価：30%（各回コメントペーパー及び最終レポート）  平常点評価：20%（授業での参加度や発言等）</p>			

授業科目名： 教育制度(法規・制度 ・行政)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田恵吾、馬場久志
			担当形態： オムニバス
科 目	教職に関する科目(教育の基礎的理解に関する科目)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連 携及び学校安全への対応を含む。)		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1) 学校教育を成立、支えている法制度と学校・学級経営に関わる基本的な制度を理解する。</p> <p>2) 学校と家庭、行政や地域社会との連携や協力によって学校が運営されている基礎的な仕組みや変化する社会での課題を学ぶ。</p> <p>3) 現代の学校教育が抱えている諸問題の歴史的、社会的背景について考え、これからの日本の義務教育を発展させるための教育政策の取組と新しい課題について追求することで教育の制度と経営についての認識を深める。</p>			
授業の概要			
<p>1) 公教育制度を成立させている基本的な教育法制度を概観した上で、学校や教育行政機関の役割と仕組み、及び教師を取り巻く制度を学習する。</p> <p>2) こども達の安全と健康を守るために学校が取り組まねばならない諸課題とそれへの対応や法制度からのアプローチを学ぶ。</p> <p>3) 現在の学校改革の動向を調べ、課題解決に向けた学校や地域社会の様々な取組みを学ぶ。</p> <p>4) 危機管理を視点から安全な学校づくりのための事故防止の基本と対応について理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：現代の学校が抱える課題と対応(担当：馬場久志)</p> <p>第2回：学校の仕組み①-学校経営とは何か-(担当：山田恵吾)</p> <p>第3回：学校の仕組み②-学校の法制基盤・行政基盤-(担当：山田恵吾)</p> <p>第4回：学校の仕組み③-学校教育の主体と地域-(担当：山田恵吾)</p> <p>第5回：指導要録の意義と役割(担当：馬場久志)</p> <p>第6回：近代公教育制度の誕生(担当：山田恵吾)</p> <p>第7回：教育課程の制度と基本類型(担当：山田恵吾)</p> <p>第8回：学校に登校できない児童生徒たちへの学習支援(担当：馬場久志)</p> <p>第9回：教育制度改革の実際-20c後半のアメリカの事例から-(担当：山田恵吾)</p> <p>第10回：子どもたちを育む地域社会と学校との連携・協働(担当：馬場久志)</p> <p>第11回：教科書の制度(担当：山田恵吾)</p> <p>第12回：教育活動を支える学校安全を確保するさまざまな活動(担当：山田恵吾)</p> <p>第13回：学校教育の現代的課題(担当：山田恵吾)</p> <p>第14回：授業の仕組み(担当：山田恵吾)</p> <p>第15回：将来の義務教育を支える教員に求められているもの(担当：山田恵吾)</p>			
定期試験			
テキスト：『学校の制度と経営』(ミネルヴァ書房)			
参考書・参考資料等 授業に関わる各種資料を各回ごとに配布する。			
学生に対する評価			
授業後のコメントペーパーとともに、毎回授業で提示される学習課題、問題について自己の意見や主張が他者との議論、討論の場を経てどのように変容したかの自己評価、及び他者評価を加味し、定期試験との総合評価を行う。			

授業科目名： 教育の心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬場久志 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育の基礎的理解に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童期・思春期・青年期の心身の発達過程について学ぶ。</li> <li>・ 発達障がいの子どもの特徴について理解し、特別支援教育の基礎知識を獲得する。</li> <li>・ 学習の基礎過程について学び、思考・記憶や動機づけへの理解を深める。</li> </ul>			
授業の概要			
下欄の内容について講義を行う。授業中に課題を設け、受講者とのコミュニケーションを図る。			
授業計画			
第1回：教育心理学の動機と背景			
第2回：発達の原理			
第3回：児童期の発達			
第4回：思春期・青年期の発達			
第5回：社会化と自立			
第6回：行動の学習理論			
第7回：認知の学習理論			
第8回：学習者の特性と指導			
第9回：学習動機づけ			
第10回：注意とメタ認知			
第11回：発達障がい			
第12回：教育評価			
第13回：学級集団			
第14回：子どもの保護			
第15回：発達・教育の可能性			
定期試験			
テキスト			
毎回配付資料を用いる。			
参考書・参考資料等			
事前・事後学修のために例えば次の図書を薦める。			
心理科学研究会編『中学・高校教師になるための教育心理学〔第4版〕』有斐閣			
古屋喜美代・他編『児童生徒理解のための教育心理学〔第2版〕』ナカニシヤ出版			
学生に対する評価			
試験を（50％）、授業時の課題提出や参加実績を50％として、総合的に評価する。			

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：野村春文 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。			
<b>授業の概要</b> 障害のある幼児、児童及び生徒の理解についての教育に関する歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育に関する制度、教育課程や支援の実際について講義する。さらに、障害のある幼児、児童生徒への個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成などの概要を理解し、障害児教育（特別支援教育）の基礎的理解を図る。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション：授業内容の概要、特殊教育から特別支援教育への転換について 第2回：特別支援教育（1）：理念、制度、歴史について 第3回：特別支援教育（2）仕組み、教育課程上の位置付けについて 第4回：障害の理解（1）：視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等、さまざまな障害の特性に対する理解と支援について 第5回：障害の理解（2）：子どもの心身の発達・心理的特性・学習上又は生活上の困難に対する理解と支援の在り方について 第6回：教育対象の特徴と指導方法の工夫：発達の課題と子どもの特徴・進路指導とキャリア教育について 第7回：特別支援教育の実際：「自立活動」等、事例を通じた支援方法について 第8回：母国語や貧困の問題等により、特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の学習上又は生活上の困難とその対応について 第9回：個別の教育支援計画、個別の指導計画：意義及び目的、作成について 第10回：連携・協働の必要性：特別支援教育コーディネーター、関係諸機関、家庭との連携、支援体制の構築について・特別支援教育全般のまとめ			
<b>筆記試験</b>			
テキスト：資料を配布する。			
<b>参考書・参考資料等</b> 吉田昌義・鳥居深雪編（2011）「特別支援教育基礎論」放送大学教育振興会 文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」			
<b>学生に対する評価</b> 筆記試験（80%）、レポート課題、小テスト（20%） レポートは、ルーブリック表を用いて評価する。			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：磯田三津子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 学習指導要領の変遷をたどり、今日、生徒が習得すべき学力とは何かについて、そして各学校が設置した教育目標や課題に基づいて教育課程の編成の方法を理解する。以上に基づいて各学校がカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
<b>授業の概要</b> 授業は大きく六つのテーマに基づいて教育課程についての理解を深める。(1) 教育課程の基礎的理論を学ぶ。(2) 顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラムを知る。(3) 学習指導要領の歴史的な変遷をたどり、改定ごとに求められてきた学力観について整理する。(4) 現行の学習指導要領の特質を明らかにする。(5) カリキュラム・マネジメントの考え方と、その実際を探求する。(6) 社会に開かれた教育課程の実際について学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育課程とは何か：小・中・高等学校のカリキュラムにみる教育課程 第2回：教育課程と教師：学習指導要領・自治体のカリキュラム・学校のカリキュラムと教師の関係 第3回：顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム：潜在的カリキュラムの実際とその課題を知る 第4回：学習指導要領の変遷(1)：戦後新教育期について 第5回：学習指導要領の変遷(2)：教育の現代化と学力観 第6回：学習指導要領の変遷(3)：ゆとりある教育課程と生活科・総合の導入 第7回：学習指導要領の変遷(4)：グローバルな知識基盤社会と確かな学力 第8回：現行の学習指導要領にみる学力：資質・能力とアクティブラーニング 第9回：教育課程の類型(1)：経験カリキュラムと生活科・総合 第10回：教育課程の類型(2)：教科のカリキュラムと系統性 第11回：総合的な学習の時間を核とした各学校のカリキュラム：総合と各教科を関連付ける 第12回：教育課程の研究制度：研究開発学校制度と各学校の教育課程 第13回：カリキュラム・マネジメントとカリキュラム評価：カリキュラム・マネジメントの実際 第14回：地域とつながる教育課程：総合的な学習と地域学習 第15回：特色のある教育課程：持続可能な開発のための教育(ESD)、国際理解教育 <b>定期試験</b>			
<b>テキスト</b> 教育課程(MINERVAはじめて学ぶ教職 10)、ミネルヴァ書房、吉田武男(監修)、根津朋実(編集)、2019年。			
<b>参考書・参考資料等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>● 中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>● 高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)</li> <li>● 『これからの教育課程とカリキュラム・マネジメント』ぎょうせい、吉富 芳正、村川 雅弘、田村 知子、石塚等、倉見昇一(編著)、2020年。</li> </ul>			
<b>学生に対する評価</b> 各回の授業でのレポート(60%)、最終レポート(40%)で評価する。			

授業科目名： 特別活動・総合的な 学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 和田重雄、大井はるえ、高原史朗
			担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習（探究）の時間の指導法</li> <li>・特別活動の指導法</li> </ul>		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の意義や目標及び内容を理解し、特別活動の指導の在り方を理解できる。</li> <li>・総合的な学習の時間の意義や各学校において目標及び内容を定める際の考え方を理解できる。</li> <li>・総合的な学習の時間の指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力を身に付けている。</li> <li>・総合的な学習の時間の指導と評価の考え方及び実践上の留意点を理解できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>今日の学校教育における特別活動や総合的な学習（探究）の時間の意義と役割について学習指導要領に基づいて理解を深める。特別活動に関しては、その実践に向けて学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動や学校行事、また地域貢献活動、さらには自己の進路実現に向けた体験活動等の特質を考察することを通して、実践的な指導力の育成を目指した基礎的な理解に向けた学習をする。また総合的な学習の時間では、教科等で育まれた知識や技能を活用し、多面的・多角的に考察して課題を解決する力を育成するとともに、自己の在り方や生き方を考えていく資質・能力を育む指導計画の作成や指導・評価の方法等について学ぶ。教科外活動を通じて「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の視点や「チームとしての学校」の視点から、実践事例を通じて特別活動や総合的な学習（探究）の時間の諸活動の特質と効果を考察し理解を深める。</p>			
授業計画			
<p>第1回：特別活動の目標と内容と教育課程における位置づけ（担当：高原史朗）  第2回：学級活動（ホームルーム活動）の実践（担当：高原史朗）  第3回：生徒会活動の実践（担当：高原史朗）  第4回：学校行事の実践（担当：高原史朗）  第5回：特別活動の指導計画と家庭、地域社会等との連携による指導体制の構築（担当：高原史朗）  第6回：特別活動と各教科、道徳、総合的な学習の時間との関連（担当：高原史朗）  第7回：特別活動とキャリア教育、進路指導、生徒の指導との関連（担当：高原史朗）  第8回：「指導と評価の一体化」を目指した特別活動（担当：高原史朗）  第9回：総合的な学習（探究）の時間の意義と目標・内容（担当：大井はるえ）  第10回：総合的な学習（探究）の時間の単元計画の作成（担当：大井はるえ）  第11回：課題の発見・解決の能力を育む単元開発と指導・評価の工夫（担当：和田重雄）  第12回：論理的思考力・批判的思考力を育む単元開発と指導・評価の工夫（担当：和田重雄）  第13回：教科と関連性を図る単元開発と指導・評価の工夫（担当：和田重雄）  第14回：総合的な学習（探究）の時間の単元開発・年間指導計画（担当：大井はるえ）  第15回：総合的な学習（探究）の時間のカリキュラム評価と改善（担当：大井はるえ）</p>			
定期試験			
テキスト			
『特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導』（中園大三郎他著、学術研究出版） 『中学生を担任するということ』（高原史朗、高文研）			
参考書・参考資料等			
『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省） 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編』（文部科学省）			
学生に対する評価			
定期試験（60%）と課題の提出（40%）により総合的に判断する			

授業科目名： ICTを利用した教育方法・技術論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村井保之、和田重雄、磯田三津子 担当形態：オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の方法及び技術</li> <li>・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法</li> </ul>		
授業のテーマ及び到達目標 情報通信技術を活用した学習指導や校務の推進の在り方を理解し、情報活用能力を育成するための指導法を含めた教育の方法や技術を学び、身に付ける。			
授業の概要 教育方法の理論と実践や学習評価を理解した上で、教育の目的に適した指導技術を身に付ける。また、情報通信技術の活用と意義を理解した上で、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方を理解し、情報活用能力を育成するための指導法を身に付ける。			
授業計画 第1回：求められる資質・能力（担当：磯田三津子） 第2回：主体的・対話的で深い学びの実現（担当：磯田三津子） 第3回：学習理論（担当：磯田三津子） 第4回：学習方法、学習過程、学習の形態（担当：磯田三津子） 第5回：「指導と評価の一体化」のための学習評価（担当：磯田三津子） 第6回：学習指導案作成の概要（担当：磯田三津子） 第7回：情報通信技術の意義と在り方（担当：村井保之） 第8回：情報通信技術と学習者の多様性（担当：村井保之） 第9回：学校におけるICT環境の整備とセキュリティの重要性（担当：村井保之） 第10回：情報通信技術の活用した指導事例（担当：和田重雄） 第11回：学習履歴データを活用した学習評価（担当：和田重雄） 第12回：遠隔・オンライン教育の意義と使用法（担当：村井保之） 第13回：校務の効率化を支えるテクノロジーの役割（担当：村井保之） 第14回：情報活用能力（情報モラルを含む）の育成（担当：村井保之） 第15回：情報通信技術を用いた模擬授業（担当：和田重雄） 定期試験			
テキスト 「高等学校学習指導要領解説 理科編 理数編」文部科学省(実教出版) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 理科」国立教育政策研究所教育課程研究センター（東洋館出版社）			
参考書・参考資料等 「ICT活用の理論と実践 DX時代の教師を求めて」稲垣忠，佐藤和紀(北大路書房)			
学生に対する評価 定期試験（50%）と提示する課題の内容（50%）で評価する。			

授業科目名： 生徒指導・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬場久志 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導の理論及びキャリア教育の理論及び方法</li> </ul>		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期の生徒の発達課題や生活課題について、実態を知り指導の在り方について学ぶ。</li> <li>・生徒の進路形成に必要な自己理解・評価力とキャリア意識の意味と指導の在り方について学ぶ。</li> <li>・生徒の成長と自立への過程を支える教師の活動と社会的連携について理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> 下欄の内容について講義を行う。授業中に課題を設け、受講者とのコミュニケーションを図る。			
<b>授業計画</b> <p>第1回：生徒指導、進路指導、キャリア教育の概観</p> <p>第2回：今日の社会における思春期の生徒の心性</p> <p>第3回：いじめ問題の理解</p> <p>第4回：いじめ問題への対応</p> <p>第5回：不登校の理解</p> <p>第6回：不登校への対応</p> <p>第7回：非行問題と指導</p> <p>第8回：自己肯定感の育成</p> <p>第9回：思春期の生徒の自己認識</p> <p>第10回：自己理解と進路指導</p> <p>第11回：職業観の形成</p> <p>第12回：学年進行と進路・キャリア意識</p> <p>第13回：教科指導を生かした職業理解</p> <p>第14回：キャリア教育における学校・家庭・社会の連携</p> <p>第15回：生徒指導、進路指導、キャリア教育における教員と学校の役割</p> <p>定期試験</p>			
<b>テキスト</b> 毎回配付資料を用いる。			
<b>参考書・参考資料等</b> 『生徒指導提要（改訂版）』（文部科学省，令和4年） ほかに、事前・事後学修のために以下の図書を薦める。 春日井敏之・山岡雅博編著『生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房			
<b>学生に対する評価</b> 試験を（50%）、授業時の課題提出や参加実績を（50%）として、総合的に評価する。			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：馬場久志 担当形態：単独
科目	教職に関する科目（道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・思春期の子どもの心理的特徴について理解する。</li> <li>・教育課題である不登校、いじめ、逸脱行動等についての実態を知り、対応について学ぶ。</li> <li>・教育相談の基本を学び、教育相談の在り方について具体的な場面を通して認識する。</li> <li>・生徒全体を対象とした予防的・開発的心理教育の意義と手法について理解する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒の学校生活における諸課題に対して、事例や統計などから多角的に学ぶ。 教育相談の基礎を学び、その意味について学校教育および発達心理の観点から考える。 教育相談の事例を通して個別対応への理解を深め、また集団に対する予防的・開発的教育相談についても学ぶ。 学校内外における組織的対応や、保護者との連携の重要性を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校教育の今日的課題と教育相談 第2回：発達から見た思春期の特徴と臨床的課題 第3回：カウンセリングとは何か 第4回：不登校の理解 第5回：不登校と教育相談 第6回：いじめ問題と教育相談 第7回：発達障がいの理解 第8回：対応の難しい児童の理解と教育相談 第9回：虐待問題 第10回：予防的・開発的教育相談 第11回：多様性の理解と教育相談 第12回：家庭環境の理解 第13回：保護者との連携 第14回：校内外の連携 第15回：教育相談における教師・学校の役割</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>毎回配付資料を用いる。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>事前・事後学修のために以下の図書を薦める。 春日井敏之・他監修『教育相談』ミネルヴァ書房</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>試験を（50%）、授業時の課題提出や参加実績を（50%）として、総合的に評価する。</p>			

## シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習 (中・高)	単位数：2単位	担当教員名：馬場久志、和田重雄
科目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1) <input type="radio"/> 学校現場の意見聴取(※2) <input type="radio"/>
受講者数	20人	
教員の連携・協力体制	入学時より履修カルテを活用し、学修の進行を教職関係科目担当教員間で共有する。	
授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：力量ある中学校・高等学校理科教員としての資質・能力の向上</p> <p>到達目標：①教員の使命や職務についての基本的な理解を確かなものとし、②教育現場における社会性や基本的な対人関係能力を身につけ、③生徒の発達や心身の状況についての理解、学級経営等についての基本的な理解と技能を確かなものとし、④教科への理解を深め、それを生かした学習指導案の作成や授業スキルを身につけるなど、指導力の基本に関する事項を学習し獲得する。</p>	
授業の概要	<p>教員としての資質能力を高めるために、教員の教育活動を多面からとり上げた演習を展開する。①教員の使命や責任と職務の遂行、児童の権利の擁護に関する事項、②社会的関係および対人関係を営む能力やその技能に関する事項、③生徒理解や学級経営などに関する事項、④教科その他の教育活動の指導力向上に関する事項などにわたり、課題を設定する。これらについて、事例の研究や参観、教職経験者の経験に学び、また模擬授業や役割演技などを行って理解を深める。このことを通して4年次前期までに培った資質能力の統合と拡充を図る。</p>	
授業計画	<p>第1回：履修カルテを活用したこれまでの学修の振り返りと各自の学修課題の設定(担当：全教員)</p> <p>第2回：教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責任(担当：馬場久志)</p> <p>第3回：今日の学校教育における諸課題(担当：馬場久志)</p> <p>第4回：学級経営と学級集団(担当：馬場久志)</p> <p>第5回：生徒理解と個別支援(ロールプレイを含む)(担当：馬場久志)</p> <p>第6回：校内の連携(担当：馬場久志)</p> <p>第7回：校外との連携(担当：馬場久志)</p> <p>第8回：学校参観(担当：馬場久志)</p> <p>第9回：教科指導力向上の意義(担当：和田重雄)</p> <p>第10回：教科内容等の理解と指導(担当：和田重雄)</p> <p>第11回：授業動画の視聴(担当：和田重雄)</p> <p>第12回：模擬授業(1)生徒の主体性を活かす授業づくり(担当：和田重雄)</p> <p>第13回：模擬授業(2)ICTの活用(担当：和田重雄)</p> <p>第14回：各自の課題発表(担当：全教員)</p> <p>第15回：教員の基本的資質・能力の確認とまとめ(担当：全教員)</p>	
テキスト	<p>中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年3月告示 文部科学省)、中学校学習指導要領解説理科編(令和3年8月改訂 文部科学省)、高等学校学習指導要領解説理科編理数編(令和3年8月改訂 文部科学省)</p>	
参考書・参考資料等	<p>随時紹介する。</p>	
学生に対する評価	<p>授業時のグループ活動への参加・発表の状況、参観・体験学習のレポート、自らの課題に対する学修成果などにより、評価を行う。</p>	

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。